

## 小中一貫教育の取組を公開 ～東通小学校・東通中学校 小中一貫教育自主公開～



小2 英語の授業①、中2 東通科授業②、アトラクションで披露された「信夫」(白糠子ども会・③)と「もちつき踊り」(小田野沢子ども会・④)

11月19日(金)、東通小学校(校長佐藤桂一)・東通中学校(校長北川博美)を会場に、村内外の教育関係者、約270名を招き、「東通小学校・東通中学校小中一貫教育自主公開」が行われました。

開会行事では越善靖夫村長から「幼小中一貫教育を目指す村では、昨年度より小中一貫教育が本格的に始まった。本日はその取組を見ていただき、皆さんの助言・指導をお願いしたい」と歓迎の挨拶があり、一貫教育研究主任の橋本賢吾教諭(東通小学校)、長内人志教諭(東通中学校)より、一貫教育の取り組みの概要が説明されました。

小・中学校全学年が公開された授業では、パソコンを使用した授業やデジタルペン(手書きの文字がデータ化され電子黒板に映し出される)を活用した授業のほか、外国語指導助手・日本人英語教諭・学級担任の3人の先生で行う小学校の英語の授業では、参観者はメモやカメラを片手に、大変興味深い様子で見学していました。また、東通村の人・文化・自然を学び、児童・生徒自らが東通村を創造していく力を育む『東通科』の授業が公開された小学校5年生と中学校2年生の教室にも多くの参観者が訪れていました。

午後8時、岩手大学教育学部田代高章准教授(写真⑤)をコーディネーターに、『市民科』を実践する日野学園(東京都)の青木経校長、『立志科』を実践する三戸小学校(青森県)の近藤雄教諭、東通中学校の竹川康則教諭、東通小学校の山本敦教諭の4名をパネリスト(写真⑥)に迎え、それぞれの学校で独自に取り組む特色ある教育の内容と、今後の展望や課題についてシンポジウムが行われました。また、早稲田大学教育学部の安彦忠彦特任教授(中央教育審議会委員・写真⑦)により、『幼小中一貫教育の現状と課題』と題した記念講演が行われ、子どもの発達や成長の観点から、幼小中の円滑な段階的移行についての講演に、参観者は熱心に耳を傾けていました。

**小中一貫教育自主公開**

村では、村内の乳幼児施設(幼稚園・児童館・保育所)、小学校、中学校を1ヶ所にまとめ、それぞれの連携を密にしており、平成20年度に中学校、平成21年度に小学校を統合し、昨年より小中一貫教育に取り組んでいます。

今回、これまでの成果を広く共有し、課題や解決策を確認することを目的に自主公開授業を行いました。

参加者の方々から頂いた多くの貴重なご意見を基に研究を進め、更なる教育の発展につなげていきます。

